

# ふじみ野市

# 内水ハザードマップ

## 内水ハザードマップ(浸水実績図)とは

内水ハザードマップとは、下水道管(雨水管)の雨水排水能力を超える降雨により、雨を河川等の公共の水域に放流できない場合に発生する浸水区域を示しております。

本市においては、平成12年から令和4年11月までに浸水実績のあった箇所を基に内水ハザードマップを作成しました。浸水実績箇所、避難時危険箇所、浸水時の避難場所、避難時の注意点などについて記載しています。ご自宅周辺で、道路冠水が始まった場合は、内水氾濫が発生する前兆ですので、焦らず安全な対処ができるようこのハザードマップを活用してください。

このハザードマップは水防法に基づくものではありません。

**ふじみ野市役所** 〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡1-1-1  
 電話：049-261-2611  
 FAX：049-261-0479  
 令和4年11月改定【第5版】

# 家族で防災会議

災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざという時にあわてず行動できるよう、家族で普段から話し合っておきましょう。

## 家族で話し合いたい項目

- 家の付近の浸水状況や、土砂災害の危険箇所を本マップで確認
  - 災害が起こったときの身の守り方
  - 家族が離れているとき、災害が発生した場合の連絡方法
  - 避難場所とそこへ行く道順
  - 災害時の家族での役割分担
- (家族の安否確認、非常持ち出し品の準備・点検、避難経路の確保、近隣者救助など)

- ※乳幼児・高齢者・病人・妊婦のいる家庭は、その避難方法も話し合います。
  - マイ・タイムラインを作ってみよう
- ふじみ野市ホームページ マイ・タイムライン  
<https://www.city.fujimino.saitama.jp/soshikiichiran/kikikanribosaika/bosaikakari/bousaizyouhou/kouzui/8601.html>



## 災害時の連絡方法

大きな災害が発生した時、離れた場所においても安否確認ができるよう、予め連絡手段を家族を家族と確認しておきましょう。安否確認で被災地への電話が殺到すると、回線が混雑し、つながりにくくなります。そのような状況でも連絡をスムーズに行えるよう「災害用伝言ダイヤル(171)」や「災害用伝言板」などのサービスが提供されています。

- 災害用伝言ダイヤル(171)** 自宅の電話番号宛に安否確認(伝言)を音声で録音し、全国からその音声を再生(確認)できます。加入電話・公衆電話・携帯電話・PHSなどから利用できます。
- 災害用伝言板** 携帯電話・PHSのインターネット接続機能で伝言を文字によって登録し、全国から伝言を確認できます。パソコンからもアクセスできます。
- 伝言メモ・書き置き** 避難所や外に出かける際に、自宅に伝言を残しましょう。(玄関のドアに紙や布テープを貼って油性ペンで書き込むなど)

## わが家の避難場所・連絡先リスト

避難場所		家族が離ればなれになった時の集場所			
名 前	電話番号(職場・学校、携帯電話)	生年月日	血液型	備考	

# 情報の入手

市民のみなさんは正確な気象情報や避難情報を入手して、指示がない場合でも、必要性を感じたら、自主的に避難してください。

- テレビ・ラジオ 無線が聞こえない場合は、049-256-8877(有料)までご連絡ください
- 防災無線

- ふじみ野Fメール 携帯電話やパソコンのメールを利用して、市政情報などをお届けします。登録は無料ですが、受信に伴う通信料やパケット通信費は、利用者の負担となります。防災無線放送内容もこちらで確認できます。



- エリアメール(NTTドコモ)・緊急速報メール(au、SoftBank、楽天モバイル) 気象庁や国・地方公共団体が配信する災害・避難情報を、携帯電話会社により市内に滞在する携帯電話に配信されるサービスです。受信すると専用の着信音流れります。受信するための登録は不要です。※受信料や情報料等は無料です。※機種によっては未対応や受信設定が必要な場合があります。携帯電話各社のホームページや販売店にお問い合わせください。

## インターネット

気象庁 ホームページ	<a href="http://www.jma.go.jp/index.html">http://www.jma.go.jp/index.html</a>
埼玉県 危機管理・防災・防犯等	<a href="https://www.pref.saitama.lg.jp/theme/anzen/index.html">https://www.pref.saitama.lg.jp/theme/anzen/index.html</a>
国土交通省 川の防災情報(水位情報)	<a href="http://www.river.go.jp/">http://www.river.go.jp/</a>
埼玉県水防情報システム(川の防災情報)	<a href="http://suibo.saitama-river.info/saitama/servlet/Gamen30Servlet">http://suibo.saitama-river.info/saitama/servlet/Gamen30Servlet</a>
荒川上流河川事務所	<a href="http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/">http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/</a>
ふじみ野市 ホームページ	<a href="http://www.city.fujimino.saitama.jp/">http://www.city.fujimino.saitama.jp/</a>
消防防災博物館	<a href="http://www.bousaihaku.com/">http://www.bousaihaku.com/</a>
…消防防災に関する知識などを提供する総合サイトです。	

# 気象情報・避難情報

## 避難情報とは

避難の準備や開始のタイミングの目安となる情報で、市が発令します。河川や雨の情報のほか、地域の土地利用や災害実績などを踏まえ総合的に発令判断を行います。市のホームページや防災行政無線などで確認しましょう。

状況	住民がとるべき行動	避難情報等
<b>5</b> 災害発生又は切迫	命の危険直ちに安全確保!	●すでに災害が発生しています。いのちを守るために最善の行動をとりましょう。 緊急安全確保
(警戒レベル4までに必ず避難!)		
<b>4</b> 災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	●冠水など、避難が困難になっている可能性があります。 ●速やかに避難を!! ●浸水想定区域外の、少しでも安全な場所へ避難してください。 避難指示
<b>3</b> 災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	●高齢者は速やかに避難を。 ●浸水想定区域や、河川沿いにいる方も、準備が整い次第、避難してください。 高齢者等避難
<b>2</b> 気象状況悪化	自ら避難行動を確認	●ハザードマップ等で避難場所や危険な区域を再確認しましょう。 大雨・洪水注意報
<b>1</b> 気象情報(気象庁発表)	気象への心配は高まる	●気象への心配は高まる。 早期注意情報

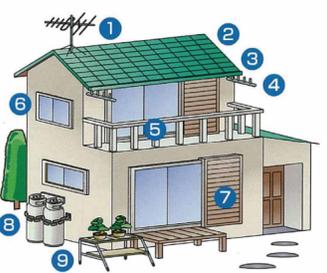
## 雨の降り方と雨量の関係

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を覚えておきましょう。

雨量	やや強い雨 10~20mm	強い雨 20~30mm	激しい雨 30~50mm	非常に激しい雨 50~80mm	猛烈な雨 80mm以上
予報用語 1時間雨量(mm)					
人の受け イメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	思えないような圧迫感がある。恐怖を感じる。
人への影 響	地面からの跳ね返りで足元が濡れる	傘をささしてもぬれる	傘は全く役に立たなくなる	傘は全く役に立たなくなる	傘は全く役に立たなくなる
屋内(快適住宅の場合)	雨の音で話し声がよく聞かれない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく
屋外の様子	地面一面に水たまりができる	道路が川のようになる	道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなる
車に乗っている	ワイパーを速くしても見づらい	ワイパーを速くしても見づらい	ワイパーを速くしても見づらい	ワイパーを速くしても見づらい	ワイパーを速くしても見づらい

# 日頃の備え

## わが家の点検・整備



- 1 アンテナや煙突を補強する。
- 2 瓦のずれなどを補修する。
- 3 雨どいを掃除する。
- 4 竿やベランダの小物を全て取り込む。
- 5 壊れた手すり等は修理する。
- 6 雨戸のないガラス窓は飛来物の破損から守る工夫をする。
- 7 古い雨戸は、筋交いをつけたり、つかい棒をあてがったりして、応急の補強をする。
- 8 プロパンガスボンベを鎖でしっかり固定する。
- 9 家の周りにある風に飛ばされそうなものを取り込む。

- 浸水の危険がある場合には、大切な家財道具は2階や高い安全な場所に移動する。
- 雨水排水口が落葉やゴミで詰まると、道路冠水や浸水の原因に。雨水排水口の周りがゴミで汚れていたら、清掃にご協力。

## 家庭でできる簡易水防工法

家庭にあるごみ袋やポリタンクなどの中に水を入れて、土の代わりに使用することが可能です。

- ごみ袋を利用 **【設置例】**  
大きめのごみ袋などを二重にし、中に半分程度の水を入れ、すき間なく並べます。段ボールに入れて連結すると、強度が増し、積み重ねることもできます。
- シートを利用  
土を入れたプランターを横に並べ、レジャーシートを巻き込んで補強します。プランターの代わりに水を入れたポリタンクや重くしたビールケースなども利用できます。

## 非常持ち出し品を準備しましょう

- 飲料水・生活用水** 3日分の飲料水の備蓄(1人×3日×3リットル、水筒(1人×1個)、生活用水の確保・風呂水の溜め置き等)
- 食料品等** 3日分の食料の備蓄、主食(米、レトルト、フリーズドライ品等)、副食(缶詰、瓶詰、乾物等)、乳幼児・子ども(粉ミルク、離乳食、おやつ等)、その他病人用の治療食等、簡易食器(箸・スプーン・紙コップ等)、切切りナイフ・ラップ

- 医薬品等** 常備薬、救急用品(消毒薬・傷薬・ばんそうこう等)、包帯・三角巾・さらし、使い捨てカイロ
- 衣類・衛生用品** 衣類・軍手・マスク、簡易トイレ・トイレトパーパー、ティッシュ・ウェットティッシュ、生理用品、紙おむつ、ゴミ袋、歯みがき用品

- 停電への備え** 懐中電灯(大型:1個/小型:1人×1個)、電池、手動携帯充電器
- 情報** 携帯電話、ポータブルラジオ
- 燃料の備え** 卓上カセットコンロ・ボンベ、固形燃料・灯油・バーナー

- その他** アウトドア用品(寝袋、防水布、ランプ等)、新聞紙、ガムテープ、ライター、マッチ、ローソク、ロープ、笛、マーカerpン筆器具
- 非常用持ち出し品** 非常用持ち出し袋(必要最小限の備蓄品)、ヘルメット・レインコート・スノーシュー、現金・通帳・印鑑・健康保険証・カード類

# 浸水時・避難時の注意点

## 正確な情報収集



市役所や消防署から避難の呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。指示が無くても危険を感じたら自主的に避難しましょう。ラジオ・テレビ・インターネットなどから正しい最新の気象・災害・避難情報を収集しましょう。

## 家を出る前に確認しましょう



避難する前に、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓をしめ、電話の受話器を元に戻しましょう。親せきや知人にも避難する旨を連絡しておきましょう。非常持ち出し品を忘れず!

## お年寄りなどの避難に協力を



お年寄りや子ども、病気の人は、早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子ども、病気の人のための避難に協力しましょう。

## 車での避難はやめましょう



冠水した道路では車が水に浸かり、動かなくなることがあります。また、道路をふさいで救命活動や水防活動の妨げになることがありますので、車での避難はやめましょう。

## マンホールは危険



大雨により外れたマンホールのふたに近寄り、道路に溜まった雨水を流すために、マンホールのふたや汚水まを開けることは非常に危険です。

## 水面下は危険です



水面下にはどんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。

## 大雨の時は地下室の入室を避けて



地下室は外の様子が分りにくく、地上が冠水すると水が流れ込み水圧でドアが開かなくなる危険があります。浸水の危険がある地下施設では、土のうや止水板・排水ポンプの点検と整備をしましょう。

## 万一、逃げ遅れたら



近くの丈夫な建物の3階以上に避難して救助を待ちましょう。住宅の2階部分でも場所によっては危険があります。

## 河川や橋に近づかない



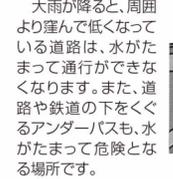
河川の様子を見ようとして、避難するときに水位が増した河川や橋に近づくと危険です。

## 動きやすい服装、2人以上での避難



避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。サンダル等は禁物です。動きやすい運動靴をはきましょう。

## アンダーパスや窪んでいる道路に注意



大雨が降ると、周囲より窪んで低くなっている道路は、水がたまって通行ができなくなります。また、道路や鉄道の下をくぐるアンダーパスも、水がたまって危険となる場所です。

## 地域ぐるみで避難行動要支援者(要配慮者)を支援しましょう

避難行動要支援者の方々や、遠慮なく援助を申し出られるように、地域の皆さんは普段から働きかけましょう。また、要支援者自身とその家族の方々も、地域との交流を保ち、いざというときの援助を依頼しておきましょう。

- 高齢者や乳幼児など、手をつなぐ、背負うなどによりしっかり援助しましょう。
- 言葉が通じない外国人には、声をかけ、身振り手振りを交えて誘導します。
- 障がい者などの避難行動要支援者を把握し、地域の具体的な支援体制を定めておくことが重要です。一人に対して複数の住民による支援が必要です。
- 日ごろから避難行動要支援者が地域のどこに何人くらいいるのかを把握し、日常的にコミュニケーションを図っておくことが重要です。